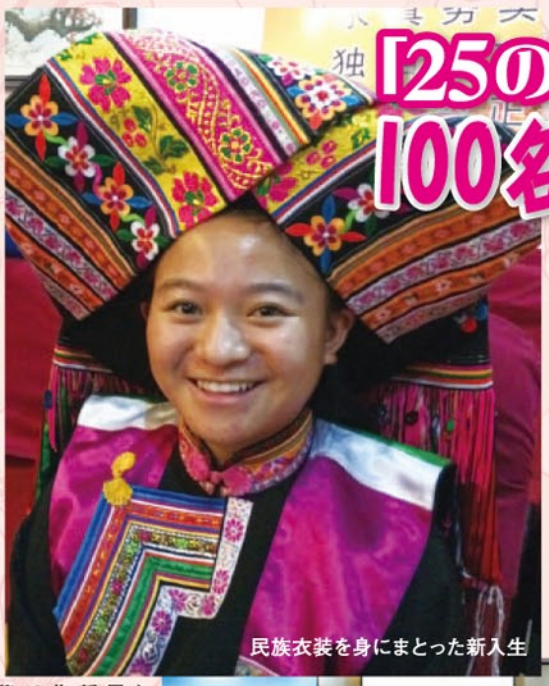
認定特定非営利活動法人 日本雲南聯誼（れんぎ）協会
【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階
Tel：03-5206-5260　Fax：03-5206-5261
Email：yunnan@jyfa.org　URL：http://www.jyfa.org/
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel.+86-871-63311468　Fax.+86-871-63320658
http://www.facebook.com/NPO.JYFA　@jyfa
ブログ 雲南の郵便屋さん 検索
編集・発行人　初鹿野 惠蘭
印刷協力　昭和情報プロセス㈱　㈱技術評論社／デザイン Hope Company

Japan Yunnan Friendship Association
彩雲の南
第51号
会報
発行日　2014年（平成26年）11月15日

「25の小さな夢基金」100名の新生活がスタートしました！


民族衣装を身にまとった新入生

▶初鹿野理事長による昆明女子中学での春蕾新入生への講演会後の集合写真　16の民族衣装が会場に華を添えました

協会の「25の小さな夢基金」プロジェクトが始まって8年、今年も100名のフレッシュな新入生が「昆明女子中学校」での新生活をスタートさせました。省都昆明市にある「昆明女子中学校」は、1908年に開校した100年以上の歴史を誇る中高一貫校。同校は1997年、経済的事情や「女性は家事をするもの」という考え方のため、優秀でありながら高校進学をあきらめていた少数民族の生徒を対象に、奨学金制度のある「春蕾高校生クラス（全寮制）」を開設しました。現在約250名が同クラスで勉強に励んでいます。

「25の小さな夢基金」で支援するのは、この春蕾クラスで学ぶ生徒たちです。協会は、大学進学を希望する少数民族の生徒を1対1で援助してくださるサポーターを募り、支援を行っています。2006年から支援を始め、これまでに支援した生徒数は新入生も含めて470人以上にのぼります。

新入生を皆様にご紹介するため、雲南支部は先日、同校でプロフィール写真を撮影しました。校庭でカメラの準備をしていると、色とりどりの民族衣装を身に着けた新入生が続々と集まって来ました。恥ずかしそうに笑みを浮かべる様子から、彼女たちの純朴さと可愛らしさが伝わってきます。最初は緊張気味だった生徒たちも、撮影を続けるうちにすっかり打ち解け、「可愛く写ってる？」、「こんなポーズをしてもいい？」などと声をかけてくれるようになりました。また、撮影を手伝ってくれた3年生の先輩が新入生へ優しく礼儀を教える様子から、在校生の成長を垣間見ることもできました。

夜10時に終わった講演会後も授業がありました

2006年に「25の小さな夢基金」を開始してからこれまで多くの方々にサポートしていただいています。改めて感謝を申し上げます。

「25の小さな夢基金」では現在、新入生のサポーターを募集しています。彼女たちの学費を一方的に支援していただくだけではなく、1対1のサポート形式を通じ、生徒との手紙のやり取りや、卒業式参列などの機会もあります。またご支援を元に、生徒たちに向けた各種講演会や日本語授業、上海日本人学校との交流事業なども行っています。皆様の温かいご支援をお待ちしております。

夢基金卒業生 女子大生の夏休み！

▶民族衣装を身にまとった劉慧娟さん

「25の小さな夢基金」の卒業生・劉慧娟さん（ヌー族）の夏休みのある一日をご紹介します！

劉慧娟さんは2014年に少数民族女子高校を卒業し、現在、雲南民族大学法学部の2年生に在籍中です。夏休みで故郷の怒江リス族自治州に帰省し、毎日、暑い中、農作業や家事を手伝いました。

ある日、劉さん一家は早朝から総出で薬草を採りにでかけました。薬草は劉さん一家の大事な収入源ですが、朝早くから夕方まで険しい山の中を歩き回らなければなりません。この日、劉さんたちは「白及」という薬草を探し当てました。「白及」はラン科の多年草で、赤紫の花はお茶として飲まれ、球茎は風邪に効く漢方として重宝されています。

劉さんは小さな体で急な崖を這うように登ったり、薬草が入った重いかごを担いだりと大活躍。全身汗びっしょりで手は真っ黒になりましたが、家族のためにたくさんの野草を採ることができました。家族が一日がかりで採った薬草は合わせて120元（日本円で約2,000円）、年収4000元足らずの一家にとって大収穫でした

家族思いで親孝行な劉さんは現在、法律とともに独学で日本語も勉強しています。将来の夢は日本に留学して日本語を磨き、もっと日本の文化を理解して、協会で働くことです。

◀きのこや野草はこのように急な場所に生息しています

▶ヌー族の民族料理「焼餅」

▲思わぬ収穫がありました

大学生になった春蕾卒業生インタビュー

協会が「25の小さな夢基金」で支援した春蕾生徒たちは、どのような日々を過ごしているのでしょうか？　春蕾生徒の昆明女子中学「卒業後」を追って、昆明市東部にある大学都市の呈貢（チャンゴン）を訪れました。

雲南師範大学呈貢キャンパスに集まってくれたのは、見るからに“女子大生然”とした、秦徳英（2010年卒）、劉慧娟（2012年卒）、李建美（2013年卒）、玉応坎（2013年卒）の4人です。

大学生活の感想を聞くと、劉さんは開口一番「大学は自由で楽しい！」。すべてのことを自分の意思で決めることができるので、服装も生活も自由で自己責任。だから「油断して成績が落ちたときは哀しくなった」とも言います。劉さんは春雷時代を振り返り、「あの頃はそれらしい“ふり”をしていた」と暴露。「日本から来た支援者を失望させないように“おしとやかさ”を演技していた」には全員が爆笑でした。

1年生の玉さん、李さんは戸惑いも経験しました。「自己中心なルームメート同室者全員が堪忍袋の緒を切らしてケンカになった」と玉さん。一方で、3年生の秦さんは「携帯電話をなくしたときにルームメートの一人が携帯を貸してくれた」といいます。新しい携帯を買ったときにはそのルームメートが充電器をプレゼントしてくれたとか。李さんは「春雷とは違う世界。人間関係で学ぶことが多い」と指摘します。

大学の勉強は予想以上に厳しいようです。秦さんは「学年が進むにつれて勉強の内容も量も増えて時間が足りない」と苦笑い。来年6月には卒業を迎えるため、卒業後は春雷入学時の約束通りに故郷に戻って公務員になるか、自身の進むべき道に迷い始めているようです。

春雷時代の“忘れられない思い出”を聞いたところ、秦さんの「いっしょにシャワーを浴びたこと」という言葉に全員が頷きました。李さんと玉さんは「休み明けに故郷から持ち帰ったお菓子をみんなで奪い合うように食べたこと」と笑います。春雷時代の思い出を語るとき、彼女たちの心に、あの頃の“温もり”が甦ってきたように見えました。

▲右から
秦徳英（雲南財経大学4年：麗江出身）
劉慧娟（雲南民族大学3年：怒江出身）
李建美（雲南師範大学2年：曲靖出身）
玉応坎（雲南農業大学2年：勐海出身）

9期生を迎えた里親制度

中国では9という数字は「永久」につながり縁起が良いと言います。龍も幸運をもたらす仮想の動物で、合わせて九龍の造形はよく見られます。旧暦9月9日、（今年は新暦十月二日でしたが）重陽の節句では盃に菊の花びらを浮かべ菊酒を楽しむとも言われます。

今年卒業した楊燿彩さんのサポートをしていた岩間ご夫妻（上）

雲南協会の里親制度は、今年の受け入れで9期生となり、合計472名を支援することが出来ました。今までの卒業生は、9割以上が大学に進学し、日本語学科に進学したり、卒業して教職についたりした里子もいます。

ご夫妻から楊燿彩さんへ送るプレゼント（手紙と写真）を説明している様子（下）

来年、大学卒業生の中からは、協会の雲南事務局の職員となり、雲南でこの運動を支えたいという希望者が出て来ました。（今、卒業生の会の世話役をしている○○さん）そう言えば、「雲南ふれあいの旅」の折には、日本への留学経験があり、雲南で活躍する方々を中心に一夕ご馳走になりましたが、彼らは、雲南の少数民族の学校建設にも協力してくれました。雲南出身の一主婦による日本発のNPO法人日本・雲南聯誼協会の活動が、しっかりと日中双方で根付いている証拠です。

とは言え現地で見る少数民族の生活ベースは、日本の百年前（明治時代）の生活とも垣間見られました。協会も新しい活動や各方面からご支援を戴けるよう精一杯の努力をしてまいります。これからも日本の里親の皆さんの多大なご支援、お気持ちを大切にして、日中の架け橋となる人材育成をして参ります。以上ご支援を戴いている皆様にお礼とご報告を申し上げます。

（協会顧問・岩間辰志）

雲南省昭通市で大地震発生！ 絆 皆さまの温かいご支援ありがとうございました

この女性のご主人は
山で放牧中に地震に遭い、
ご主人の遺体はいまだに見つからず、
家財道具一切も地震で失いました

崩壊した山道を進み奥地の被災地に入る

被災地で出会った香港のNGOの若いボランティア。
被災直後から現在まで現地で主に被災者の心のケアを
行っています

被災テントの中で
食事の準備をする女性

今年8月3日午後4時半（日本時間午後5時半）頃、雲南省東北部の昭通市でマグニチュード6.5の地震が発生しました。震源地は同市南西部の魯甸県で、震源の深さは12ｋｍ。レンガ積みの家屋が多い山間地のため死者数は617名、行方不明者112名、家屋の倒壊3万戸と甚大な被害を出しました。

協会では地震発生直後からお見舞いの言葉や励ましの声、募金に関する大変多くのお問い合わせをいただき、8月5日に募金活動を開始しました。

現在までに皆さまからお寄せいただいたご寄付は173万円までに達し、皆様の温かい心のこもったご寄付を教育に関する分野で有効に使わせていただくために、理事長が10月に昭通市魯甸県火徳紅鎮にある避難所を訪問しました。避難所では被災者から直接、被害状況などを聞くことができました。火徳紅鎮では6つの村が川で塞がれ、村が丸ごと水没してしまった村もありました。被災地では地震から3か月経った今でも、多くの被災者がテントでの生活を余儀なくされています。現地は冬に近づきちょうど夏用の薄いテントから厚い冬用テントに替えていたところでした。テントは家族ごとに配られ、布団などの日用品は足りているようでしたが、台所やテーブルは共用のため、不便さを極めていました。地震のときのことを聞くと涙ぐみながら語ってくれました。家族の遺体がいまだに見つかっていない遺族、着の身着のまま逃げ出してきた被災者も多くいました。被災者の方々は私たちに笑顔を見せてくれましたが、心にはいつも不安と寂しさがあり、心に大きな傷を負っているようでした。政府の今後の政策はまだ決定しておらず、いつまでこの生活が続くのか不安だと話していました。以前の暮らしに戻るまで、そして心の傷が癒えるまでまだまだ時間がかかりそうです。

今回の視察では、最も被害が大きいとされる震源地近くの村まで視察する予定でしたが、村へ続く道はまだ復旧しておらず、そのため視察を断念せざるを得ませんでした。

協会では今後も引き続き支援活動を続け、震源地近くの村までの道が復旧したら視察に向かう予定です。支援状況と視察については追ってご報告いたします。

なお、協会が昭通市に建設した二校の小学校は幸いにも大きな被害はなく、夢基金の卒業生と協会関係者の無事が確認されました。皆様のお心遣いとご支援、本当にありがとうございます！

25校目支援決定！「50の小学校プロジェクト」ついに決定！25校目

「危険家屋」に指定された旧校舎の前に
プレハブの校舎が建てられました

協会の「50の小学校プロジェクト」の25校目となる支援校が、タイ族チンポー族自治州盈江県にある「蘇典郷勐撇小学校」に決まりました。同校はリス族のみの山岳地帯にあり、現在79名の児童が通っています。今年5月、2度にわたって発生した地震で、校舎や食堂、宿舎が深刻な被害を受けました。いずれも危険家屋に指定され、建て直しが必要ですが、地震の被害は広範囲に渡り、この小さな小学校まで政府の支援の手は届いていません。協会関係者が7月3日に視察に訪れた際にも、子どもたちはプレハブの建物での生活、勉強を強いられていました。盈江県の学校計画によると、同小学校は長期保存学校に指定されており、合併の予定もないそうです。このため、協会は同州で初めての支援校に同小学校を選び、同校の宿舎再建を支援することとしました。

プレハブの教室では子どもたちが
笑顔で楽しそうに授業を受けています

設備が十分とは
言えない寄宿舎

第5回 雲南支部インターンシップ

協会では「アジア未来への人材プロジェクト」の一環として、2012年より雲南支部事務所で夏と冬の年2回、インターンシップを実施しています。日本語を学ぶ学生たちに実践の場を提供することが目的です。5回目の今回、雲南大学、雲南師範大学、雲南民族大学、雲南大学滇池学院から計15人の学生がインターンシップに参加してくれました。そのうちの二人が感想を寄せてくれました。

雲南事務所にて

◉今回のインターンシップに参加することができてすごく幸運です。毎日新しい仕事があり、PPT やワードを使って企画書の作成や翻訳をしました。やはり翻訳は最も難しい仕事だと思います。翻訳の過程で自分に欠けている点を発見しました。単語量が少ない、文法が苦手など、足りない所が多くてとても大変でした。でも、先生や仲間の助けでうまく完成できました。毎日忙しかったですが、とても充実していました。こんな珍しい経験は一生忘れられないと思います。今の私は日本語をうまく活用することができないけれど、日本語能力を向上させるために今後一生懸命頑張ります。

雲南師範大学３年　範竹君

◉今度のインターンシップに参加できて本当に楽しかったです。仕事のマナー、企画書の書き方や市場調査、春蕾生の手紙の翻訳など、いろいろなことを勉強しました。翻訳を通して自分の翻訳能力が鍛えられました。また、みんなで一緒に会報を作り、チームワークの重要性を理解しました。とても大切ですね。事務所の先生はとても優しいです。毎日インターンシップが終わったあと反省文を書き、一人一人発表しました。今回のインターンシップはとても有意義でした。これからもっと頑張ろうと思います。

雲南大学滇池学院２年 周嫻

花見団子作りの真っ最中

第1回 日本雲南大学生交流スタディツアー報告会・懇親会 in 東京

◉「視野広がった」とスタディツアー報告会

ツアー特製のTシャツ
について説明する
ツアー参加者

日中の大学生が雲南への貢献策を探る「日本雲南大学生スタディツアー」の報告会が9月27日、協会事務所のビルで開かれました。協会初の試みながら、参加した学生からは「視野が広がった」との声が聞かれ、早くも来年3月に次回ツアーが企画される好評ぶりです。

報告会には助成していただいた三菱UFJ国際財団の岡花耕企画部長、かめのり財団の西浩子理事など関係者約15人が出席。日本の大学生12人、中国の18人が「食と健康」、「衛生・環境」など7つのテーマに分かれて活動したツアーの報告を行いました。

「食と健康」の埼玉県立大、渡部優美さんは「食育の一環として昆虫食を進めるといいのでは」という現地の環境を生かした提案を行い、「衛生・環境」の法政大、竹内拓海さんと専修大、木下千尋さんは「健康、命を守るという観点から虫歯予防を進めたい」と、歯磨き習慣のない雲南で日本人ならではの生活改善策を思いつきました。

また、ネット中継された雲南からも、「芸術」の学生が「ポスターカラーを使って、日本文化であるカルタを作った。異文化に触れた子どもたちの集中力がすごかった」と報告してくれました。

最後に専修大の酒井由太さんが「全く違う文化の人と話し合って苦戦もしたが、すごくいい経験になった。生活にギャップがあっても人間として上下はない。同じ視線で物を見ることが大切だと感じた」と総括。それぞれの活動が今後どう展開していくのか楽しみです。初めての主催に至らない点も多々あったかもしれませんが、私たちは雲南で感じた思い、考えた社会貢献プランを、私たちを応援してくださった皆様にシェアしたい、感謝したいという思いを元に報告会を行いました。

夢のようだと言われてしまうような壮大なものがあったり、本当に学生だからこそ出来る社会貢献プランを考えるというテーマに対して、周りの大人を巻き込んでしまう、私たちとたくさんの人が関わりあって行う物になりました。

それは私たちにとって再び応援してくださった皆様と更に関わりを深くするきっかけでもあり、これからこのプランを実行していくのが楽しみでもあります。

報告会会場の様子

第1回 日本雲南大学生交流スタディツアー報告会・懇親会 in昆明・藤沢友誼会館

報告会の様子

昆明市内の藤沢友誼会館で9月14日に日本語交流会が開かれ、日本雲南大学生交流スタディツアーの報告会が行われました。報告を行ったのは雲南大学4年生の劉寛艶さんと朱倞さん。ツアーの参加者4名を含め、日本語講師と大学生、日本人留学生など約40名を前に、少々緊張した様子で報告しました。その中で「日本人学生は自分の意見を持っている」「計画性がある」「遊びと勉強の切り替えができる」「礼儀を忘れない」など活動を通して感じた日本人学生の印象なども紹介されました。その後の自由交流ではスタディツアーについて詳しく質問する大学生も多く、来年3月の次回開催へ向け、よい広報の機会となりました。

※藤沢友誼会館では、雲南民族大学の後藤裕人先生が中心となり、毎月1回日本語交流会が開かれています。交流会は2部に分かれ、第1部では毎回2～3名が日本文化や日本の紹介などを行います。第2部は自由交流の時間です。

連載

こんにちはCSR

ー協会を支えてくださる協力企業からのメッセージー

第9回◉株式会社キッツ

会社概要■1951年(昭和26年)創業のバルブ・システム機器等の流体制御機器の製造メーカー。高品質を実現する研究開発・生産体制により、「感銘的な創造商品」を国内外に提供。グローバルな販売ネットワークと市場に適した戦略でシェアを拡大しています。2009年度より「社会貢献活動」を全社的な活動として取り組み、「地域振興(地域貢献)」、「社会・国際貢献」、「環境保全」、「文化振興」を重点活動分野・領域と定め、様々な活動を行っています。

本社所在地
〒261-8577 千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目10番1
TEL：03-5457-3370　FAX：03-5457-3371
http://www.nightingale-web.com/

※CSR=Corporate Social Responsibility（企業の社会的責任）：利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと

清水雄輔
キッツ名誉最高顧問

マンションや工場などあらゆる建物に欠かせないのが水道、ガスなどの配管をつなぐバルブです。そのバルブの世界的メーカー、キッツ（KITZ）も協会の法人会員です。22年にわたって同社の社長・会長を務め、現在名誉最高顧問の清水雄輔さんが10年ほど前、知人から協会の会報をもらい、応援を頼まれたのがそもそもの始まり。長い間「長江から南側の中国に対する憧憬」を抱いていた清水さん、すぐに個人会員になっていただきました。

清水さんは「会報の写真を見ると、みんな実にいい顔をしているよね。成長していく姿を見るのは本当に嬉しい」といい、その後、初鹿野理事長から協会顧問就任の要請を受け、それならばと同社も法人会員に登録。「社報などを通じて会員を公募しました。社長と常務は多少強制的にね（笑）」。すると社内で7人が「25の小さな夢基金」の里親になってくれたそうです。「お金出すだけじゃなくて、意味のあることをしている、自分が役に立っていると思えるのは喜びですよ」と話してくださいます。

実は、同社は1974年に「北澤育英会」を設立し、40周年を迎える今年までに、のべ506人もの卒業生を送り出している教育支援の大先輩です。清水さんは、協会の活動について「確実に実績を積んでいる。関わっている人多くの誇りになっていると思います」。初鹿野理事長についても「なんとも言えないエネルギッシュなキャラクター。組織の金、人をうまく回しているのはすごいこと」と評価。まだ雲南を訪れたことがない清水さん、「雲南の少数民族に限った活動は全体像が見えるし、草の根の活動の力強さを感じます。何しろ一度行かなきゃいけない」。ぜひ、ご自身で支援の成果を確かめて下さいね。

株式会社キッツ
本社

10回目の記念大会

雲南省少数民族貧困児童・教育支援チャリティーゴルフコンペ

山梨県の大月カントリークラブで10月11日、第10回教育支援チャリティーゴルフコンペが開催され、清々しい秋空の下、遠くは高知県四万十市から駆けつけたメンバーを含む24組**94**名が自慢の腕前を競いました。

名物の雲南美女との記念撮影、ワンオンできなければ1000円の寄付が義務づけられた「魔の18番ホール」などチャリティーコンペならではの楽しいイベントもあり、大変盛り上がりました。プレー終了後には懇親パーティーが行われ、今年のチャリティーコンペも盛大に終えることができました。

皆様の温かいご寄付により、今年も新たに3名の学生を支援できることになったことをご報告いたします。参加いただいた皆様に感謝申し上げますとともに、来年もまた数多くの方々と楽しい一日を過ごすことを楽しみにしています！

協賛、ご寄付(順不同、敬称略)：
サッポロホールディングス株式会社、京王プラザホテル、綿半ホールディングス株式会社、大日本印刷株式会社、図書印刷株式会社、港北出版印刷株式会社、株式会社加藤文明社印刷所、株式会社村上製本所、株式会社技術評論社、村田昭二、参加者全員
ボランティア協力(順不同、敬称略)：滝沢崇、松田雄馬、渡部優美、木下千尋、劉萃

コンペで支援している学生のご紹介

「25の小さな夢基金」女子高生

鄭浩潔さん(モンゴル族)
2012年9月昆明女子高校「春蕾クラス」入学現在3年生
2012年 第8回
コンペより支援開始

馬国淋さん(ハニ族)
2012年9月昆明女子高校「春蕾クラス」入学現在3年生
2012年 第8回
コンペより支援開始

李滿華さん(漢族)
2012年9月昆明女子高校「春蕾クラス」入学現在3年生
2012年 第8回
コンペより支援開始

馬麗飛さん(回族)
2013年9月昆明女子高校「春蕾クラス」入学現在2年生
2013年 第9回
コンペより支援開始

王麗萍さん(イ族)
2013年9月昆明女子高校「春蕾クラス」入学現在2年生
2013年 第9回
コンペより支援開始

韓化冰さん(チワン族)
2013年9月昆明女子高校「春蕾クラス」入学現在2年生
2013年 第9回
コンペより支援開始

今回のコンペから新たに以下3名の女子高生も応援します！

余金晶さん(リス族)
2014年9月昆明女子高校「春蕾クラス」入学/現在1年生
今回のコンペより
支援開始

依光併さん(タイ族)
2014年9月昆明女子高校「春蕾クラス」入学/現在1年生
今回のコンペより
支援開始

劉順芬さん(漢族)
2014年9月昆明女子高校「春蕾クラス」入学/現在1年生
今回のコンペより
支援開始

昨年支援した学生たちへのインタビュー

去年のチャリティーゴルフコンペで集まったご寄付により支援した３人の春蕾生。２年生になった彼女たちに去年１年間を振り返ってもらいました。

馬麗飛（回族）

この一年、たくさんの経験をすることができました。クラスメイトは色々な地方から来ていますが、みんなととても仲がよく、日々、ともに成長していると感じています。

７月には上海日本人学校との交流会に参加し、日本人の高校生と交流活動をしたり、授業を一緒に受けたりしました。一番印象に残っているのは英語の授業です。日本人の先生が英語を教えたあと、学生がスピーチをして、４人の外国人の先生が講評をしていました。上海の高校生は友好的で、私たちのために通訳してくれたのでとても親近感を感じました。

みなさまのおかげで私は勉強を続けられ、交流会にも参加することができました。これからも一生懸命勉強し、将来は社会に恩返すとともにこの愛を次の世代へつなげていきたいです。

韓化冰（チワン族）

入学したばかりのときは理系の勉強のほうが好きだったので、実はすごく転校したかったのです。でも先生やクラスメイトから励まされ、今は安心して勉強しています。私の家は辺鄙な農村にありますが、みなさまの支援を受け、ここで勉強することができてとても嬉しいです。今後もより一層自信を持って勉強を続けていこうと思います。

王麗萍（イ族）

この学校は様々な活動があり、たくさんのことを学ぶことができます。去年受けた日本語授業はとても印象深かったし、できれば続けて勉強したいです。将来はアナウンサーや司会者になりたいので、もしチャンスがあればこうした分野の学校に進学したいです。日本雲南聯誼協会のみなさま、私を支援してくださってありがとうございます。一生懸命勉強して必ず社会の役に立つ人になり、将来はみなさまの愛をつなげていきたいです。

グローバルフェスタ Japan 2014 開催！

毎年恒例の日本最大級の国際協力イベント「グローバルフェスタJapan 2014」が10月4日と5日の二日間、東京・日比谷公園で開催されました。今年のテーマは、「Smile Earth！地球の明日（みらい）へ"笑顔"のタネまき！」。国際協力に携わるNGO、政府機関、国際機関、企業など約300もの団体が一堂に会し、活動報告、展示などを行いました。

フェスタ初日は朝からさわやかな秋晴れに恵まれ、絶好のフェスタ日和でした。二日目は残念ながら台風の接近によりお昼までの開催となりましたが、二日間の来場者数は7万7千人を数えました。

今年も、毎回お立ち寄りいただいている常連さんとの再会、初めてお立ち寄りいただいた方との出会いなど、たくさんの方が足を運んでくれました。また、募金箱を設け、ご寄付いただいた方には雲南省少数民族の手作りの工芸品（アクセサリーや、ポーチ、孫の手など）やプーアール茶をお持ち帰りいただきました。参加したボランティアスタッフは二日間で計36名に上りました。

今年も皆様の温かいたくさんのご寄付、ありがとうございました！

「第1回日本雲南大学生スタディツアー」に参加した大学生もボランティアとして参加しました

ボランティア協力(順不同、敬称略)：山下真知、木本一彰、岩沙圭、佐々木英介、張南、王 珊、三木亮、渡部優美、山本晶、木下千尋、松田雄馬、近藤森雄、久継智弘、菊地瑛里、北吉田和子、千々岩哲、花沢晴美、滝澤崇、上原正夫、林則幸、土田淳志、黒沼明恵

協会ボランティア通信

連載 第8回

山本 晶さん

今やグローバルフェスタなどのイベントに欠かせない存在の山本晶さん。高校まではバレーボール漬けの毎日でしたが、大学に入って「何か新しいことに挑戦したい」と日中の学生交流事業に参加したのが中国との出会い。「目に映った中国はとてもパワーにあふれていて、学生もエネルギッシュでした」と刺激を受け、帰国後、中国語の勉強に力を入れ始めたといいます。その後も蘇州や大連に留学し、中国の魅力にはまっていったようです。

帰国後も「中国と関わりたい」と思うものの、中国関連のボランティアは少ないのが現状。そんな中、友人の紹介でグローバルフェスタでの協会の手伝いにきたところ、「すごく温かく居心地の良い雰囲気で楽しかった、また来たい」と思ったとか。同時に、「雲南」の子どもたちの様子を写真で見て、「中国の違った一面を知ってショックでした。少数民族の子どもたちは（中国の標準語である）普通話が分からないことも知りませんでした。まさかこんな状況とは」と衝撃を受けたそうです。就職活動中の2012年、日本政府が尖閣諸島を国有化し日中関係が冷え込んだ際も、「良いも悪いも含めて、ありのままの中国を伝えたい」と、内定をもらっていた企業を断り、中国観光局に就職。現在はまた違う分野の仕事にチャレンジしている山本さん、「日中の架け橋になるというのが私の人生の大きな軸であり、協会の活動にはできればずっと関わっていきたい。自分が動いてできることは積極的にやっていきたいです」と話してくれました。

イベント報告

第5回「アジアの子どもたち」共同写真展

第5回「アジアの子どもたち」共同写真展が8月24日から三日間、横浜市神奈川区の「かながわ県民センター」で開かれました。同写真展は、当協会の根岸恒次顧問が代表を務める「21世紀のカンボジアを支援する会」とインドを支援する「**レインボー国際協会**」、スリランカ支援の「**日本スリランカ国際文化社会開発協会**」がネットワーク作りの一環として当協会と共同企画したものです。

協会のブースには、雲南省や協会のプロジェクトを紹介するパネルと子どもたちの写真60点以上が展示され、三日間で180名を超える方にご来場いただきました。

ボランティアスタッフの説明に熱心に耳を傾けている来場者

日時：8月24日(日)～26日(火)
場所：かながわ県民センター展示場1階
（神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町）

ボランティア協力（順不同、敬称略）：
金澤孝、平田栄一、石山敏朗、川口邦夫、藤代将人、佐々木英介

第18回全国巡回写真展「笑顔を君に」in 半蔵門

全国巡回写真展「笑顔を君に」が9月16日から10月16日まで、東京・半蔵門にある市民国際プラザで開催され、270名以上の方にご来場いただきました。2011年6月に大分県の立命館アジア太平洋大学で第1回目が開かれてから、同写真展ももう18回目。会場には雲南省や協会の活動を紹介するパネルとともに、雲南省で逞しく生きる子どもたちの写真や8月に行われたスタディツアーの写真なども多数展示されました。また、色鮮やかな彝（イ）族の女性の民族衣装をはじめ、手刺繍が施されたポーチや飾り物なども展示され、会場は華やかな雰囲気になりました。

日時：9月16日(火)～10月16日(木)
場所：市民国際プラザ
（相互半蔵門ビル1階）

ボランティア協力（順不同、敬称略）：滝澤崇、渡部優美

国際ふれあいフェア

協会ブース

協会としては4回目の参加となる、さいたま市観光国際協会主催の「さいたま国際ふれあいフェア2014」が10月12日(日)、浦和駅前で開かれました。

前日に予定されていた「あげおワールドフェア」が台風で中止になり、「さいたま国際ふれあいフェア」の開催も心配されましたが、幸い当日は風もなく、お天気に恵まれました。

さいたま市の友好都市を中心とした11か国21団体のブースが駅前に立ち並び、7000名を超える来場者でにぎわいました。協会ブースには、色鮮やかな民族衣装を試着しようと子どもたちが押しかけ、新聞社も取材に訪れました。

日時：10月12日（日）
場所：浦和駅東口前市民広場
（埼玉県さいたま市）

ボランティア協力(順不同、敬称略)：鳥羽清弘、川口邦夫、大泉国雄、横山晋、佐藤正典、市川由美子、高蓓、寺内明子

理事長、中国大使館65周年祝賀レセプション出席！

中国大使館主催の「中華人民共和国成立65周年祝賀レセプション」が9月25日、東京都千代田区のホテルニューオータニで行われました。日中の関係改善が求められる中、政財界をはじめ外交・教育・文化・芸術分野など様々な分野で両国の関係発展に寄与した1800人余りがレセプションに出席しました。

程永華駐日中国大使

イベント情報

第35回 八王子いちょうまつり

日時：11月15日(土)、11月16日(日)
場所：並木町郵便局横 ※協会出展場所
（東京都八王子市）

第14回チャリティー忘年会 日本と雲南少数民族友好の夕べ

日時：12月20日(土)
17：00～19：00
場所：ビヤステーション恵比寿
（東京都渋谷区
恵比寿ガーデンプレイス）

江戸川総合人生大学 国際コミュニティ学科講座

テーマ：
「日本に住む中国の人々の活動について」
講師：初鹿野恵蘭
日時：12月24日(水)
14：00～16：00
場所：しのざき文化プラザ 講義室
（東京都江戸川区篠崎町7-20-19
都営新宿線篠崎駅西口直結）

ワン・ワールド・フェスティバル(予定)

日時：2015年2月7日(土)、8日(日)
場所：関テレ扇町スクエア・
扇町公園・北区民センター
（大阪府大阪市）

アジア未来への人材プロジェクト 第2回日雲大学生交流 スタディーツアー事前学習会 全10回

日時：11月25日から
2015年2月24日の毎週火曜日
19：30～21：30
※但し、12月23日(火)～1月6日(火)は除く（予定）
場所：日本・雲南聯誼協会東京本部

お知らせ

「第2回日本雲南大学生交流スタディツアー」の参加を大募集！

「アジア未来への人材育成プロジェクト」の一環として今年8月29日～ 9月6日に行われたスタディツアーが、参加した大学生はもとより、現地の大学や教授からも高く評価され、早くも来春、再び実施されることになりました！

このスタディツアーは、日本の大学生が現地の大学生とチームを組んで「食と健康」、「衛生・環境」などのテーマを設定、「学生だからこそできる」社会貢献プランを提案するものです。日中の大学生が寝食を共にし、相互理解を図ることも大きな魅力です。今夏のツアーに参加した学生は次回、「昆虫食の勧め」「歯磨き励行」といった自分たちのプランを実行していきます。そう、社会貢献プランは提案だけで終わるのではなく、実行されるのです。これほど魅力あふれる企画は、14年間真摯に教育支援を行ってきた当協会だからこそできることだと自負しています。

来夏は昆明の大学生を受け入れる番になるため、来春以降、昆明へ行くのは再来年になります。個人では行けない少数民族地域の農村にも行けるこのスタディツアー、やる気にあふれる大学生の皆さんの参加をお待ちしています。もし周りに大学生がいましたらどんどんご紹介くださいね。

次回の会報ではツアーに参加する学生の事前学習会の様子をレポートします。乞うご期待！

15周年記念式典開催予定

日時：**2015年8月** ※予定
場所：京王プラザホテル（新宿）

皆様の温かいご支援により、日本雲南聯誼協会は来年、15周年を迎えます。これまでのご支援へ深く感謝しますとともに、今後も変わらぬご厚誼を賜りたく、記念式典を計画しております。是非、ご足労いただき、15周年を共に祝っていただければ幸いです。

初鹿野理事長中国出張

初鹿野恵蘭理事長が10月13日から25日まで中国へ出張しました。今回は2014年度「25の小さな夢基金」の新入生講演会、「第2回スタディツアー」についての大学生協力会との打ち合わせ、上海総領事館、上海商工会議所への表敬訪問を行ったほか、8月3日に昭通市魯甸県で起きたマグニチュード6.5の地震の被害状況を確認するため、現地を視察しました。

「雲南省昭通市魯甸県地震支援プロジェクト」で訪れた被災地では、皆様から善意が寄せられていることをお伝えしました。寄付金も支援のために有効に使わせていただきます。

今回の出張では各プロジェクトが順調に進み、実り多い出張となりました。

「学生だからこそできることがあります」

この度、当協会では「アジアの未来に貢献したい」と考えている学生の皆さんに参加していただける新しい制度を作りました。アジアの未来のために様々なプロジェクトを一緒に考え、「学生だからこそできる社会貢献」をやってみませんか？

会費　250円／月
3,000円／年

学生会員第1号！

編集後記

「こんにちはCSR」の取材でお邪魔させていただいたKITZの清水顧問から「会報を楽しみにしていますよ」と言われ、思わずどきりとしました。会報の発行前になるとたくさんの原稿を処理しなければならず、仕事が雑になりがちです。しかし、会員さんの大半は会報を通じてしか、協会の活動の様子を知ることができません。会報に載った写真や記事だけを見て、支援を続けて下さっている会員の方が多いのです。それを肝に銘じたためか、今回は原稿手直しのお願いが増え、ライター各位には多少負担をかけましたが（笑）、今後も楽しい会報づくりを目指します。

（編集長・木本一彰）

2014 チャリティー忘年会「日本と雲南少数民族友好の夕べ」

今年も忘年会の季節になりました!毎年、大勢の方々にご参加いただいているチャリティー忘年会も14回目を迎えます。今年も皆様と一緒に2014年の労をねぎらい、親睦を深めたいと思います。

皆様、お誘い合わせのうえ、是非ご参加ください！ ご参加をお待ちしております！

日時：2014年12月20日(土)
17:00~19:00
場所：ビヤステーション恵比寿
（東京都渋谷区恵比寿 恵比寿ガーデンプレイス内
JR恵比寿駅東口徒歩5分）
会費：一般6,500円（学生5,500円）
参加費のうち1,000円を協会教育支援活動へのご寄付とさせていただきます。
会費は当日受付にて頂戴いたします。
定員：100名　※先着順となります。

お申込み、お問い合わせは日本・雲南聯誼協会東京事務局　03-5206-5260